# 矢作川流域圏懇談会通信

## 全体会議 vol.1

発　行　日：令和4年　3月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会　事務局

## ◆第 11 回全体会議を開催しました！

２月 21 日（月）に「矢作川流域圏懇談会第 11 回全体会議」を開催しました。今回の会議は、新型コロナウィルス感染症対策の徹底を図るため、オンラインを主体とする会議方式としました。会議では、今年度の活動成果、次年度の活動目標、新たに発足した「ミライ会議（部会連携調整）」等について、意見交換を行いました。

日　　時：令和４年２月 21 日（月）13:30～15:30
会議方式：Web（オンライン）会議
参 加 者：48 名（事務局含む）

## ◆主な会議内容

### 1.今年度の取り組みと成果・次年度の活動目標、「矢作川流域圏懇談会 10 年誌」について

**■懇談会の運営方針について**

懇談会は、「矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る」「流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る」ことを目的に、①市民部会の活動の活発化 ②課題解決に向けた山・川・海部会の積極的な議論と交流 ③河川整備計画のフォローアップ を運営方針として活動を行ってきた。

**■市民部会と地域部会の今年度の活動進捗報告と成果**

各部会で活動目標を設定し、WG・フィールドワークなど幅広く活動を行った。流域連携イベントは2つのイベントに参加し、情報発信を行った。全体会議では、これら各部会の令和３年度の活動スケジュール、活動目標に対する進捗状況について報告した。

●市民部会：矢作川を巡るバスツアーについては、新型コロナウィルス防止のため実施は次年度とした。7月31日に「マイクロプラスチックが及ぼす環境影響」、11月27日に「ネオニコチノイド系農薬が及ぼす環境影響」をテーマに公開講座を実施し、懇談会内及び外部への情報発信・情報共有を行うことができた。

●山部会：「流域圏担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つのテーマについて情報共有と意見交換を行った。流域圏担い手づくり事例集では、学童保育木質化プロジェクトを対象に取材活動を行った。山村ミーティング・森づくりガイドラインでは、「矢作川水源の山づくりガイドブック」を策定するための会議を豊田と岡崎で行った。木づかいガイドラインでは、新たな取り組みとして、山梨県南都留森林組合との連携による各種活動等が情報共有された。

●川部会：「本川モデル」「支川モデル」「地域連携モデル」の3つのテーマについて活動した。本川モデルでは、置土実験の状況、鵜の首地区の水位低下対策事業の状況、土砂の流れによる河床形態や砂州形成の仕組みについて、現地での検証と意見交換を行った。支川モデルでは、水系の河川情報の集積として、初音川のビオトープ施工箇所の現地視察を行った。地域連携モデルでは、ごみ問題に関する情報共有、生態系ネットワーク協議会等との連携について、意見交換を行った。

●海部会：「ごみの問題」「豊かな海の再生」「海と人の絆再生」「土砂の問題」の４つのテーマについて、活動した。「ごみの問題」では、西尾市東幡豆海岸で漂着ごみの状況を観察し、意見交換を行った。「豊かな海の再生」では、アサリをはじめとした三河湾の生物資源回復に向けた取り組み、豊かな海の認識について、意見交換を行った。「海と人の絆再生」では、一色干潟での観察会や学習会など海に関わる活動について、情報共有を行った。「土砂の問題」では、置土実験の状況やダム堆積砂を利用した干潟・浅場の再生について、情報共有と意見交換を行った。

**■社会に向けた情報発信の推進**

●流域連携イベントでの情報発信：「第13回 いい川・いい川づくりワークショップ」において、矢作川流域圏懇談会の活動について発表した。「第8回三河湾大感謝祭」において、木製玩具の出展、矢作川に関するクイズの出題などを行った。
●公開講座の実施：市民部会主導で、2回の公開講座を実施し、公開講座の様子を動画配信した。

**■各部会の次年度の活動目標（案）**

≪市民≫地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーを企画・開催する。また、防災、農業、水産資源、上下水等のテーマで公開講座を実施する。

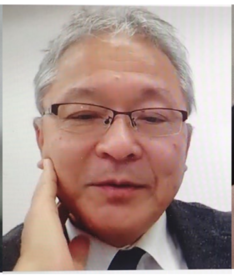
≪山≫4 つのテーマについて、ひきつづき情報共有と意見交換を行う。また、４つのテーマの中で共通する課題については、協働しながら解決策を議論する。

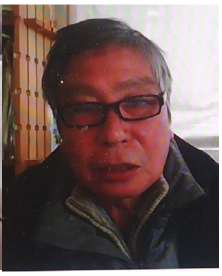
≪川≫土砂をキーワードに他部会を巻き込んだ情報共有と意見交換を行うとともに、昨今頻発する自然災害や環境の悪化に注目し、矢作川の望ましい姿を検討する。

≪海≫４つのテーマについて情報共有と意見交換を行うとともに、情報を発信する。またそれぞれのテーマの課題解決手法を検討する。

**■部会連携調整（通称：ミライ会議）発足について**

矢作川流域圏懇談会の次の10年を見据えた議論を展開する場として、10年誌の編集に関わったメンバーが中心となり、「部会連携調整（通称：ミライ会議）」が発足した。今年度は5回の会議を実施し、部会連携調整の役割や今後の活動等について、協議した。





## ◆主な会議内容

### 2.河川整備計画フォローアップ等について

河川整備計画フォローアップに関して、治水関連では「矢作川流域治水プロジェクト」について、情報共有と意見交換を行い、「鵜の首地区水位低下対策事業」について現地視察を行った。また、土砂管理関連では、置土実験箇所を視察し、意見交換を行った。

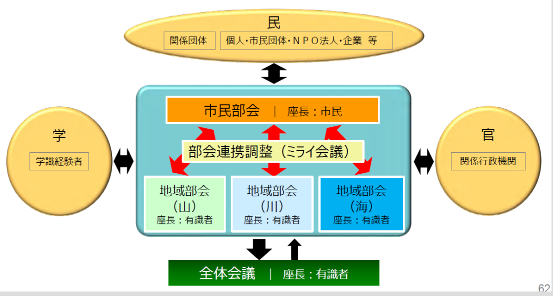
### 3.今後の計画　令和４年度以降の懇談会の体制について

■体制図

市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）と地域部会（座長：有識者）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。また、部会連携調整（ミライ会議）を設置し、流域圏の将来を見据えた部会間調整を進めていく。

■スケジュール計画

- 市民部会は WG3 回、まとめの会１回を実施とともに、バスツアーを１回行う。また、公開講座の実施を検討する。
- 勉強会と流域連携イベントの実施に関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担う。
- 地域部会 WG は、山３回、川２回、海２回を基準として開催する。フィールドワークは随時実施する。また、今まで通り総括として全体会議に向けた「まとめの会」を 12 月頃に実施する。
- 全体会議を２月に実施し、１年間の成果と今後の課題を話し合う。
- 部会連携調整（ミライ会議）を５回開催する。今後の流域圏のあり方等を検討、支援する。
- 流域連携に関するイベントを３回実施する。
  １矢作川感謝祭（夏）２いい川・いい川づくり WS（秋）３ 三河湾大感謝祭（秋）




令和４年度以降の懇談会の体制（案）

| 体制・イベント | | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 市民部会 | WG | 勉強会 | | ← | - - | - - | - - | - - | - - | → | | | |
| 市民部会 | まとめの会 | | | | | | | | | | ● | | |
| 地域部会 | WG | フィールドワーク | | ← | - - | - - | - - | - - | - - | → | | | |
| 地域部会 | まとめの会 | | | | | | | | | | ● | | |
| 全体会議 | 話し合いの会 | | | | | | | | | | | | ★ |
| 部会連携調整 | ミライ会議 | | ← | - - | - - | - - | - - | - - | - - | - - | → | | |
| 流域連携に関するイベント | | | | | | | ① | ② | ③ | | | | |

令和４年度のスケジュール（案）

## ◆話し合いでの主な意見

（• 意見　➢ 回答）

■今年度の取り組みと次年度の活動目標に対する意見

- 流域圏懇談会活動を 10 年以上続けてきた。これは非常に重要な力。課題を見つけ、１年間の活動を計画し、実行していくことはすばらしいことと思う。（辻本）
- 豊かな自然、水の流れをつなげるためにも、矢作川流域を面として捉えた議論の必要性を感じて、流域圏懇談会以外の一般の方々も交えて公開講座を計画した。次年度は、工業や農業に関係される方々との連携を高めたい。（光岡）
- 「矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議」は、４つの森林組合が集まって意見交換するという、全国的に見ても画期的な会議と思う。（蔵治）
- 土砂が川を下り海へ行く際、川の形を創りながら流れる。土砂と川の形状について専門の視点を交えた議論ができた。（内田）
- 10 年前の流域圏懇談会の発足当時と現在は、まさに坂道を転がるような水産資源の欠乏がある。それを流域として今後どう考えていくかは、非常に大きな問題。流域圏懇談会として解決策を見つけていきたい。（井上）
  - ➢ アサリの減少を矢作川流域の方々に知ってほしい。山からの栄養塩類が海まで届いていない。この現状を矢作川流域の市民や農業、工業をやっている方々に知らせていく。豊かな海の視点を流域圏懇談会として説明していく必要がある。（髙橋）
  - ➢ 愛知県のアサリに対する注目がかなり高くなると思う。海部会の役割も重要になってきたと思う。（青木）
- 川だけではなく水田も見ていく必要がある。水田を入れて策を考えていかないと難しい段階にきたのかと思う。（辻本）
  - ➢ 農地というのは重要なファクター。流域の恵みを考える場合、農業や食料という視点が必要と思う。（蔵治）
- 流域治水の取り組みで、全国に先駆けた取り組みとして「田んぼ貯留」をやっている。（事務局）
  - ➢ 流域圏懇談会で気になっていたのは防災の視点。防災に無関心であってはならないので、何かの機会に防災の視点を検討するほうがよい。（辻本）
- 部会連携調整（ミライ会議）では、各部会の進捗状況を共有し、継続して活動できる企画を検討し、課題解決に向けての議論や部会活動をサポートしていくための調整を行っていく。（事務局）
  - ➢ 山部会の事例集づくりでは、都市住民を巻き込んだ流域再生の先進事例として、学童保育木質化プロジェクトの取材を行った。都市と山間部の双方の関係者に、予想を遥かに超える波及効果をもたらしている取り組みであった。（洲崎）
  - ➢ 川の中の議論から、流域を面として広げたいという思いがある。流域の外へも発信することが必要と考えている。（近藤）
  - ➢ 山・川・海の３本立てにプラスして、農業や都市も加えて 4~5 本立てなりの視点で議論していくことが必要になるかもしれない。また、生活と流域圏を考える場合、水道についても考える必要があると思う。（蔵治）
  - ➢ 農地や都市など山・川・海で囲まれたところで人間が展開している話しもうまく連動させて組織図の中に取り込んでいかなければいけないと思う。ミライ会議で検討していただきたい。（辻本）
  - ➢ 山と海は、林業や水産業と結びついている。川も農業や上下水道と結びついている。そこへ広げていくには時間がかかるが、そのための力を付けていくことが大事かと思う。（辻本）
- 流域圏の外への発信という意味で、10 年誌が活用できた。とてもよかったという意見が流域圏外からきている。（近藤）
  - ➢ 超党派水制度改革議員連盟や、水循環基本法フォローアップ委員会のメンバーにも配布した。「ぜひ矢作川に行ってみたい」という声が挙がっていることから、矢作川流域を視察するツアーも考えている。（蔵治）
  - ➢ 流域圏活動をしている他の組織との連携や情報交換のきっかけになる可能性がある。（辻本）

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8129
＊矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。